

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490800093		
法人名	特定非営利活動法人 しらゆり		
事業所名	グループホームしらゆり荻		
所在地	大分県竹田市荻町瓜作4575番地1		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年7月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成24年12月19日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で自立した生活への支援をします。自分の想いを大切にしてアットホームな環境を提供します。地域との連携を密にして地域の人たちと共存できるように考えています。(本年度は地域に呼びかけて敬老会を実施しました。地域の老人会、ボランティア、家族、運営推進委員会の協力を得まして約100名ほどの規模で開催しました。ただ、竹田市荻地区の敬老会と時期的に重なりますので今後の課題です。)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、ゆったりとした生活を支えている。運営推進会議や職員会議での提案も実践に活かされ、推進委員も協力的で行事なども地域の方の協力のもと実施されている。職員のチームワークも良く、情報共有、利用者本位のケアを実践している。地域との協力関係も築かれている。食事に対しても、旬の食材や器、盛り付け等も配慮し、食に対してのこだわりを持ち、五感で感じられるように考慮している。

#### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、実践につなげるよう努力をしています。	理念を3つに分けるなど具体化し、職員の理解を深めことでケアの実践につながるように努めている。職員も理念を共有し実施している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者を含めて敬老会をしました。地域のシニアクラブ、ボランティアグループ、家族、推進委員、老人会と初めて連携を持ち行いました。日常のかどうかは自信がありません。	敬老会では、ボランティア・老人会・幼稚園児との交流がある。また、公民館での行事などにも積極的に参加し、地域との交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、認知症対応型共同生活介護の共用型のデイサービスを申請中です。認知症で入浴、食事に困り、日中独居状態の老人や家族を支援したいと考えています。25年4月から対応できそうです。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	竹田市は7月に水害に遭いました。荻地区では水源地が被害に遭い当時は敬老会どころではない状態でした。推進会議に意見を出してもらい高齢者のためにやって下さいということになり実行しました。	2ヶ月に一度開催し、相談、意見交換も活発にしている。家族代表も毎回交替して会議に参加している。地域の情報提供や協力体制もあり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村・地域包括支援センターとは良好な関係だと思えます。運営推進会議のメンバーの構成員でもあります。何かあれば支持をいただいています。	事業計画の相談や事故報告などの相談に対して、市の担当者も協力的であり、適切な助言を受け、ケアの向上につながるなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていませんが外出願望と帰宅願望が強い人が2人います。朝夕の職員が少ない時間帯に扉に施錠しています。事故防止の為にしていますが違反行為でしょうか。ちなみに4～5回近所まで外出(徘徊)しています。	月一度の職員会議や機会を設けての話し合いを重ね、理解を深めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事故防止の為に研修会に出席しその人の人格、尊厳が損なわれないよう努めています。	/	/

事業者名:グループホームしらゆり菖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の専門の社会福祉士の研修会を持ち研修します。活用できる様努力はしますが今のところ該当する例はありません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分説明し、理解を得ていると思います。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24年度より地域推進会議に家族を代表して1名出席して頂いています。運営に反映できているかどうかは自信がありません。	行事に合わせ、年1回の家族懇親会を設けている。運営推進会議にも交代で家族に出席してもらったり、面会時に情報提供し、意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催しています。ヒヤリハットや確認事項、予定、ケース検討などをしていますが意見が出にくいのかもかもしれません。	職員会議で意見交換をしているが、発言が少ない場合は、あらかじめ議題を絞り、意見の引出しに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件の整備には努めているとは思いますが、他の事業所に比べて劣るとも優れているとも思えません。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修、資質の向上については積極的であると思います。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	竹田市でグループホームの連絡会があり、交流会、研修会の取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の想いを大事にして安心して生活できる様努めています。そのためのモニタリング、ヒヤリングを大事にしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人はもちろんですが家族の想いも大事にしています。家族と一緒に支援する気持ちで対応しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期では家族の想い、本人の想いを把握するのに手さぐりの時もあります。他のサービスの利用を含めた対応は今のところありません。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と家族の連絡・調整をしながら家族と一緒に処遇するおもいで連携を密にしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の連絡・調整をしながら家族と一緒に処遇するおもいで連携を密にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人によっては馴染みの場所や馴染みの物を避ける人もいます。昔の事を思い出すことがいい人(大多数)には家族等の情報を流して話を共有できるよう支援しています。	家族との絆を大切に、電話で話をしたり、行事に参加をしてもらうなど関係が途切えないようにしている。以前から行っている馴染みの理美容室も継続利用したり、できるだけ機会を設け関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	想い、人生観、個人の歴史、好み等が異なるため孤立しないように調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	起立や立位保持が出来なくなり、入院した人がいます。(家族の要望もあり)介護保険の更新の時期もあり在宅のケアマネジャー・家族と係をとりながら次の段階(特養入所)の希望に添うべく)努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれ思い、願い、価値観が違うので本人の意向、希望の把握に努めています。	日々の関わりの中で、本人の言動、行動を把握し、得られた情報を職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のしたいこと、出来る事、生活史を知らなければ本人の要望に添えないので、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しています。	必要に応じ、カンファレンスを開催し介護計画を作成している。家族へ説明し、同意を得て、要望があれば計画を変更している。モニタリングも行い、現状に即した計画にしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で会議、研修を行い情報を共有しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところサービスの多機能化に取り組む状況ではありませんが25年4月から共有型のデイサービスを申請しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年ボランティアグループ、シニアクラブ、子育ての会と子ネクションができました。今後につなげていきたいと思います。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、眼科、歯科、皮膚科の連携は良好です。	かかりつけ医の受診や協力医、専門病院の受診を支援し、医療との関係も築いている。変化がある場合は家族へ報告、情報提供をしている。必要に応じて往診も受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいますので適切な受診や主治医・専門医との連携は密であります。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員・社会福祉士とは入院時、退院時、退院後の指導助言を頂き、連携は密です。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	竹田医師会病院、救急病院、主治医、家族等と終末期の在り方を共有し、チームで支援します。	入居時に事業所の意向を説明している。家族も納得しているが、今後は看取りを行っていく方向で検討している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行いたいと思います。開所時(22年11月)に救急救命の講習を受けました。25年1月か2月に再度講習を受ける予定です。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月12日に通報消火訓練を行いました。7月に水害があり、萩町の上水道の水源地が被災しました。5日程飲料水の配給を受けました。災害に対するスキルは必要だと思います。	消防団立ち合いでの避難訓練や設備機器の点検、夜間想定でのDVDによる勉強会をしている。地域との協力体制も築かれている。今回の水害被害を受け、備蓄などの再検討も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように対応しています。	日々の関わりの中で気づいたことは、助言、指導を行っている。職員同士もお互いに注意しあいながら、職員一人ひとりが居心地の良い言葉掛けに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1回入居者との懇談会を持ち、希望や、したいこと、食べたいもの、行きたい所などを聞き出すようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのひとらしい暮らし、その人の意向を反映した暮らしを大切にしていきます。中には皆と同じような生活の方が落ち着いていいと言う人もいます。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が全員女性なので気を使うようにはしています。ただ、経済的な理由もありますので、家族と相談の上の支援になります。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材の準を備をしたり、時には外食で自分の好きなメニューを選べるがあります。	個人の能力に応じ、下ごしらえや片付け等の役割分担をし、生きがいになるように支援している。漬物を漬けたり、干し柿作りも一緒にしている。食器や盛り付け、彩りにも配慮し、食欲が湧くように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	習慣に応じた支援、個人個人に応じた支援を心がけています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のたびに見守り、介助をしながら口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握し対応しています。	排泄チェック表をもとに個別の誘導、誘い掛け、見守りを実施し、自立に向け支援している。紙パンツから布パンツに変わった利用者もいる。また、誘い掛けの言葉にも配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の特性を考えながら主治医と連携を取り個々に対応しています。10時のおやつはヨーグルトを摂取して持っています。(嫌いな人には別に用意しています。)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に添った対応をしています。週2回は入浴の機会を確保しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してよく眠れるよう配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の介助と変化の把握に努めています。常勤の看護師がいますので連携は密です。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様、楽しみごと、気分転換等を取り入れた支援を心がけています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し最低月1回の外出、外食の支援を心がけています。	天気の良い日は庭に出たり、散歩に出かけている。庭にベンチを設置し、休憩場所を設けるなどの工夫もしている。家族の協力もあり、季節に合わせての外出や外食などもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ち、使うことの大切さは理解できますが、現状では自分で管理できる人はいません。管理が出来ない、計算が出来ない、買い物をする場所がない等の理由で買い物出来る利用者が居ません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援はしています。家族に日常的な電話をする人が1名います。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、床暖房があり、住環境は整っていると思います。	清潔感があり、わかりやすい表示などの工夫をしている。季節が感じられるような飾りつけをしている。また、床暖房や窓を二重構造にするなど、居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋は1人部屋で一人になりたければいつでも一人になれます。思い思いに過ごせる様に工夫されていると思います。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族がよろしければ使い慣れたものを持ちこんで居心地良い環境を作るのには賛成です。本人が居心地良ければ最高です。	本人の個性に合わせた居室づくりを実施し、使い慣れた物や思い出の物、家族の写真等を置き、安心して暮らせるように配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりをつけ、自分の部屋には介助が欲しい時にはコールで呼べるようにして自分自身のペースで生活できるように配慮しています。		